

NEWS RELEASE

2023年2月20日

日本豆乳協会

SOY2210

日本豆乳協会

2022年（1-12月期）における豆乳類の生産量が416,329 kℓを達成

～ 無調整豆乳は前年比102.7%増加、

豆乳類全体の生産量は、前年同期比98.2%とほぼ同量で推移 ～

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：藤村 公苗 キッコーマンソイフーズ株式会社 代表取締役社長、事務局長：杉谷 智博、以下豆乳協会）では、2022年（1-12月）における豆乳市場の動向について検証したところ、豆乳類全体の生産量は416,329 kℓ（98.2%）となりました。

2022年（1年間）における豆乳生産量を豆乳類の分類ごとにみると、「豆乳（無調整）」の生産量は126,304 kℓ（102.7%）と引き続き増加しています。「調製豆乳」は204,268 kℓ（98.1%）、「果汁入り豆乳飲料」は15,860 kℓ（90.7%）、コーヒーや紅茶などの「フレーバー系の豆乳飲料（その他）」は55,811 kℓ（93.4%）といずれも前年をやや下回りました。主に業務用の豆乳である「その他」の 카테고리においては14,086 kℓ（90.5%）と、引き続き低迷している外食需要の減少による影響を受けています。なお、出荷量においては、生産量と同様の傾向を示しています。

一方で、第4四半期（2022年10月-12月期）の生産量においては、商品の値上げ等が起因し、全体では、104,351 kℓ（94.9%）となりました。それぞれの分類ごとでは、「豆乳（無調整）」が32,010 kℓ（97.2%）、「調製豆乳」は52,442 kℓ（98.6%）、「果汁入り豆乳飲料」は3,617 kℓ（86.4%）、コーヒーや紅茶などの「フレーバー系の豆乳飲料（その他）」は12,700 kℓ（81.1%）、主に業務用の豆乳である「その他」の カテゴリにおいては3,583 kℓ（91.4%）といずれも前年と比較し、下回りました。なお、出荷量においては、生産量と同様の傾向を示しています。

2022 年は、他の食品や飲料同様に、原料価格の高騰に伴う商品の値上げが続いている中で、豆乳についても同様に 5%程度の値上げをしています。そのため、生活者の間で消費に対する意欲が減退していることや買い控えが起こったことが、豆乳の生産量の減少にも影響していると考えます。一方で、コロナ禍が続く中で、生活者の健康志向が続いていることから、料理や飲料として増加率が高まっている「豆乳（無調整）」の生産量がさらに拡大したと見ています。

豆乳協会では、引き続き、国民一人あたりの豆乳（類）年間飲用消費量を 4ℓに増加させ（2020 年 3.4ℓ / 総人口 12,500 万人）、年間総生産量を 50 万kℓにすることを目標に、豆乳に対する人々の理解や関心を高めるため、年間を通じて様々な啓発・啓蒙活動を展開していきます。

（参考）

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓蒙活動を行っています。昭和 54 年 9 月 1 日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓蒙活動を展開しています。毎年 10 月 12 日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

(株)VA インターナショナル
田中/岩野

メール：vai@va-intl.co.jp
TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017